

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成20年5月8日(2008.5.8)

【公開番号】特開2001-345179(P2001-345179A)

【公開日】平成13年12月14日(2001.12.14)

【出願番号】特願2001-86520(P2001-86520)

【国際特許分類】

H 0 5 B 33/10 (2006.01)

G 0 9 F 9/30 (2006.01)

H 0 1 L 27/32 (2006.01)

H 0 5 B 33/12 (2006.01)

H 0 1 L 51/50 (2006.01)

H 0 5 B 33/22 (2006.01)

C 2 3 C 14/12 (2006.01)

【F I】

H 0 5 B 33/10

G 0 9 F 9/30 3 3 8

G 0 9 F 9/30 3 6 5 Z

H 0 5 B 33/12 B

H 0 5 B 33/14 A

H 0 5 B 33/22 Z

C 2 3 C 14/12

【手続補正書】

【提出日】平成20年3月21日(2008.3.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

絶縁体の上方に T F T を形成し、

前記 T F T に電氣的に接続される画素電極を形成し、

前記画素電極を囲むように金属膜を含むバンクを形成し、

前記金属膜を負または正に帯電させながら前記バンクで囲まれた部分に発光性材料を含む層を形成することを特徴とする発光装置の作製方法。

【請求項 2】

絶縁体の上方に T F T を形成し、

前記 T F T に電氣的に接続される画素電極を形成し、

前記画素電極を囲むように絶縁膜および金属膜を積層してなるバンクを形成し、

前記金属膜を負または正に帯電させながら前記バンクで囲まれた部分に発光性材料を含む層を形成することを特徴とする発光装置の作製方法。

【請求項 3】

請求項 1 または請求項 2 において、前記金属膜と同じ極性に前記発光性材料を帯電させながら、前記発光性材料を含む層を形成することを特徴とする発光装置の作製方法。

【請求項 4】

請求項 1 または請求項 2 において、前記金属膜と逆の極性に前記画素電極を帯電させ、且つ、前記金属膜と同じ極性に前記発光性材料を帯電させながら、前記発光性材料を含む層

を形成することを特徴とする発光装置の作製方法。

【請求項 5】

請求項 2 において、前記バンクを形成する際に、前記金属膜の線幅は前記絶縁膜の線幅よりも狭くなるように形成することを特徴とする発光装置の作製方法。

【請求項 6】

請求項 1 乃至請求項 5 のいずれかーにおいて、前記バンクを形成する際に、前記金属膜がテーパ形状を有するように形成することを特徴とする発光装置の作製方法。

【請求項 7】

請求項 1 乃至請求項 6 のいずれかーにおいて、蒸着法、イオンプレーティング法またはインクジェット法により前記発光性材料を含む層を形成することを特徴とする発光装置の作製方法。

【請求項 8】

TFT と、前記 TFT に電氣的に接続された画素電極と、前記画素電極を囲むように設けられたバンクと、前記画素電極に対向して設けられた電極と、前記画素電極および前記電極の間に設けられた発光性材料を含む層と、を有し、
前記バンクは一部に金属膜を含むことを特徴とする発光装置。

【請求項 9】

TFT と、前記 TFT に電氣的に接続された画素電極と、前記画素電極を囲むように設けられたバンクと、前記画素電極に対向して設けられた電極と、前記画素電極および前記電極の間に設けられた発光性材料を含む層と、を有し、
前記バンクは、絶縁膜と、前記絶縁膜の上方に設けられた金属膜とを含むことを特徴とする発光装置。

【請求項 10】

請求項 9 において、前記金属膜の線幅は前記絶縁膜の線幅よりも狭いことを特徴とする発光装置。

【請求項 11】

請求項 8 乃至請求項 10 のいずれかーにおいて、前記金属膜はテーパ形状を有することを特徴とする発光装置。